

スクイ

引き潮時に長浜海岸を歩くと、潮の引いた場所の内側を封じ込めるように作られた低い石の壁を見つけるだろう。この石垣は石干見（いしひみ、いしひび）と呼ばれ、スクイ（すくうこと）と呼ばれる伝統漁法の基礎部分だ。

有明海では引き潮と満ち潮の差異が非常に大きく、場所によっては 6 メートルにもあり、迫力がある。縄文時代（紀元前 14,000 年 - 300 年）から、島原に住む人々は自分たちの生活のために潮を利用してきた。人々は半島に豊富にあった火山岩から石の漁の仕掛けを作った。そして待った。満ち潮で水が完全に罟を覆い、魚、カニ、他の海鮮物が中にかかった。再び引き潮になると、漁師は罟にかかった新鮮な魚介類を抱負に捕獲できた。

島原の漁師たちは何世代もスクイを利用してきたが、1920 年代にはこの伝統手法が消え始めた。2008 年に漁師のグループがこの伝統を蘇らせ、この石垣を再興し毎年春にここでスクイ祭りを開催している。